

2022年1月～3月活動報告

天塩町地域おこし協力隊 野口 裕康

活動の方向性および概要

昨年9月の着任後、「情報発信」「情報技術」「観光振興」「教育」という、4分野に関連した活動を主に行ってきたが、本年1月から3月においてもこの方向性を維持して活動した。先の3か月は年度途中の着任であり、前任の協力隊の活動を引き継ぎつつ各分野におけるサポートを行うといったかたちの活動が多く、町での生活に慣れ住民の方々とのコミュニケーションを行うための良い時期となった。2022年になってからのこの3か月は、新年度から新たなプロジェクトをスタートするための準備および調査を行いながら、短期的なものとしては特に情報発信に関わる活動を、長期的なものとしては教育および文化に関わる活動に力をいれた。具体的な内容については活動記録欄に記載した。

▶活動記録◀

1. 高大連携シンポジウムへの参加・サポート

天塩高等学校と筑波大学大学院の高大連携に関して、昨年11月に行われた高大連携ワークショップの際に優秀な評価を得た2つのグループが天塩高校を代表し、筑波大学と全国の高校をオンラインでつなぎ発表を行う「筑波大学高大連携シンポジウム－イノベーションは若い世代から生まれる－」に参加した。天塩高校代表として出席したグループはそれぞれ、「みんなの知らない特殊な特産品」「天塩に旅行に来た人に向けてツアーを考えよう（夕日を訪ねて三千里）」といった内容で発表を行った。後者の夕日に関する発表は、筑波大大学院の修士2年（当時）の学生によって研究されたテーマに関連しており、天塩町としても町の魅力としてこのテーマを活用していく方針であり、自身も協力隊の活動としてNHKの生放送番組での発表（後述）や、論文の内容をわかりやすくまとめた短い映像の制作を行う。なお、今回のシンポジウムには天塩高校のほか、坂城高校（長野県）、豊島岡女子学園（東京都）、日立北高校・竜ヶ崎第一高校（以上茨城県）が参加した。



▲オンライン発表の様子



▲考案された新メニュー

2. 町出身写真家による「働く町民」写真展の運営支援

天塩町出身の写真家、倭田宏樹氏による天塩町民の姿を題材にした写真展「TESHIO TOWN 倭田宏樹写真展 -kono machi-」が札幌駅前通地下歩行空間（チカホ）で1月14日から16日の3日間開催され、会場での展示作品の設営、町の広報誌や観光情報の冊子等の配布準備、来場者への説明業務等を担当した。自身の想定よりもはるかに大勢の方々の来場があり、また何分間も足を止めて作品に見入る通行人も多く、非常にやりがいを感じることでできたイベントとなった。札幌圏在住の天塩町出身の方々も何組も訪れていた一方

で、天塩町がどこにあるか知らないという声も多くあり、町の認知度を上げていくことは課題であると感じた。ただし、個人的な意見ではあるが、インターネットを通してどこにいても大体の情報を入手できてしまう現代においては、あまり知られていない物事に新たな価値が生まれることもあり、町の振興の方向性を定めたくてPR活動を行っていく必要があると考える。



▲会場設営の様子



▲現地スタッフとして説明等を担当

3. 狂言公演実行委員会での活動

人間国宝・野村万作氏らによる狂言公演の町での開催を目指す委員会が昨年12月発足し、そのなかで主として広報活動・情報発信・オンライン予約システム構築に関する業務が自身の担当となった。開催は無事に承認され、7月の公演開催日に向けて準備を行っている。

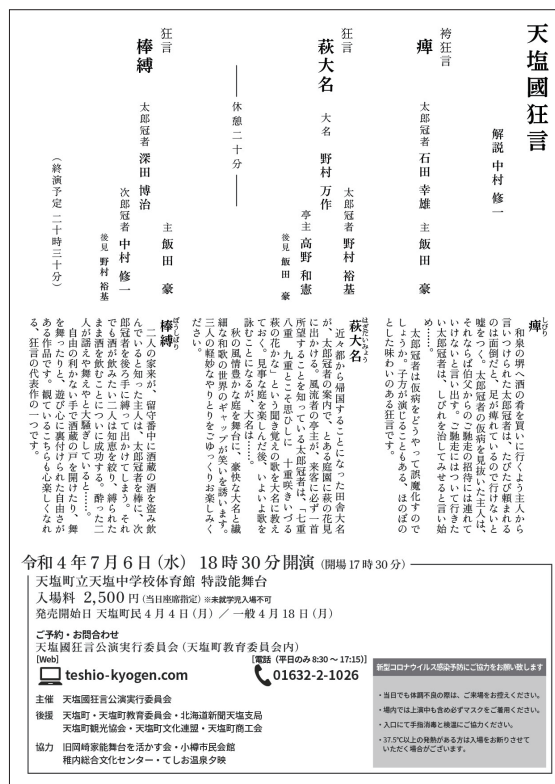
3-1. 狂言公演ポスター・チラシの制作

狂言公演を町内および町外の方々に対して告知するためのポスターおよびチラシの制作を担当した。制作にあたり使用を許可された写真の寸法および構成を考慮した結果、ポスター（チラシ）になじむように暗い背景色とし、写真の境目が目立たなくなるように注意した。

制作した以下のポスター・チラシ（表・裏）は町内外の様々な施設で現在掲示されている。



▲制作したチラシ（表）



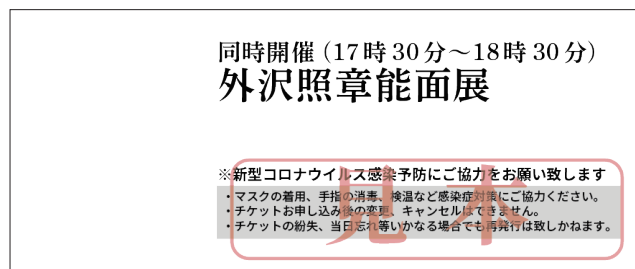
▲制作したチラシ（裏）

3-2. 狂言公演チケットの制作

狂言公演において予約販売するチケットのデザインを担当し、制作した。



▲制作したチケット（表）



▲制作したチケット（裏）

公演は3か月以上先であり、新型コロナウイルスの状況により座席配置が変更されることを考慮し、座席番号は予約時に発行せず、管理番号を予約を管理する一意な通し番号として付与した。コピー機等による複製を防止する必要があると指摘があり、コピー防止の加工をした場合の印刷のコストを考慮した結果、追加コストの発生しない方法として管理番号にチェックディジットを付加することにした。これによりチケットを複製して使用することや、番号の取り違い等の事務処理上のミスがある程度防止することができる。

3-3. 狂言公演チケット予約管理システムの制作

チケットの予約は天塩町民に対して先行予約期間を設けて実施し、その後町民に限定しない一般予約期間に移行して行われる。町民のみが対象であれば役場等における対面販売や電話予約のみで十分であるが、本公演は有料チケットを一般の方々に向けても販売するため、日中に来庁することが難しい場合の対応が必要であり、狂言公演の公式 Web サイトを開設し、予約受付期間内はオンラインで予約ができるようにした。オンラインで予約を受け付ける場合、氏名や人数、連絡先を入力したものをメールで事務局へ送り、逐一空き状況を確認して手作業で返信していくという方式が最も簡易であるが、今回は、特に一般予約開始後は短時間に何件も予約が入ることが見込まれるため、対面販売チケットとオンライン販売チケットの在庫をリアルタイムで同期して管理できるサービスを SPA（シングルページアプリケーション）として制作した。この方式ではオンライン予約時に在庫状況を自動的に参照するため、予約受付と同時に予約が確定される。

4. NHK「ほっとニュース道北・オホーツク」への映像提供

4月からNHK旭川・北見放送エリアで始まった新番組「ほっとニュース道北・オホーツク」（午後6時40分～55分に放送）中の「進め！地域おこし協力隊」では道北・オホーツク地域で活動する協力隊にスポットを当てて紹介することになっている。その記念すべき第1回の放送に天塩町地域おこし協力隊が選ばれた。番組には別の協力隊員1名が出演し、他の2名の隊員については活動内容を簡単にまとめた動画内で紹介することとなり、この隊員紹介の動画を制作した。地上デジタル放送の番組内で使用されることを考慮し、映像は4K・50fpsの規格で制作した。1分弱の短い動画ではあるが、実際の放送でも全体をすべて放送してもらうことができた。



▲映像タイトル



▲映像冒頭

5. 「受け継ぎたい北海道の食動画コンテスト」表彰式出席

農林水産省北海道農政事務所が主催する北海道の食をテーマにした動画コンテストに応募した作品が、令和3年度の優秀賞に選ばれたため、札幌市内で行われた表彰式とその関連イベントに出席した。令和3年度は全道から65作品の応募があり、最上位の優秀賞には5作品が選出された。

受賞に関連して今回応募した作品「開拓汁」の背景や、町内ウブシ原野での開拓期の暮らし等について、新聞記事に掲載された（最終ページに記事有り）。



▲表彰状の授与



▲表彰式集合写真

6. 高校前バス待合所リノベーションプロジェクト

天塩高校生徒の多くが通学時に利用している高校前バス待合所は、現在内部は老朽化した箇所が見られ、無機質な内装となっている。バス待合所が居心地が良く地域住民も集う場所となれば、利用者の快適さの向上だけでなく、町として取り組みを対外的にPRでき、生徒が通学で利用する際の防犯面からも望ましい。町協力隊の三國隊員と連携して、それぞれの得意分野のスキルを発揮しながらバス待合所のリノベーションを行い、高校生や地域住民の方々も参加して個性あふれるバス待合所を作っていくプロジェクトに着手した。現在、関係各所からの承諾が得られたため、具体的に資材選定・調達などに向けた調査を行っている。



▲高校前バス待合所の現況



▲改装案（暫定）

7. 地産食材を使った新たな「映える」料理

地域の食材を使って地域のPRに利用できる新たなメニュー開発について検討する前段階として、汎用的に利用できると思われる瓶詰めメニューの調理法を学んだ。



▲まず指定された材料により調理法を学ぶ

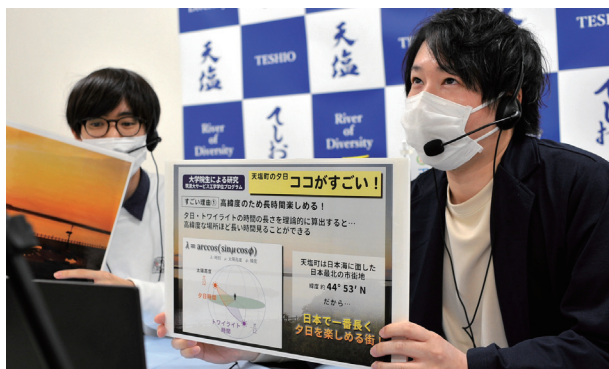


▲完成した瓶詰めメニュー

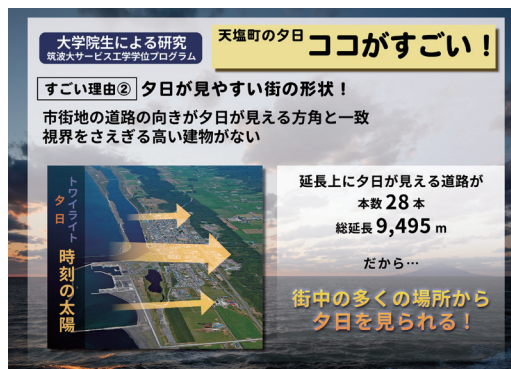
8. NHK「北海道スタジアム冬ノ陣」出演

これまでNHK総合で季節毎に放送されてきた道内市町村の魅力を紹介する番組「北海道スタジアム」の最終回にあたる「冬ノ陣」に出演した。生放送のなかで天塩町は午後6時過ぎ頃にとり上げられた。「夕日グランプリ」の座を争って天塩町のほか3自治体による夕日自慢のプレゼンテーションが行われ、視聴者投票の結果、天塩町が1位を獲得することができた。

夕日について天塩町が特集されることが放送の間近になり知らされたため、筑波大大学院サービス工学学位プログラムの学生が天塩町で行った研究の結果をもとに急遽フリップボードを作成し、放送当日に使用した。



▲生放送時の様子



▲時間がなく放送で紹介できなかった2枚目

9. その他イベント・セミナーへの参加

- ・啓徳小学校「今年も終わりですね集会」
- ・分かりやすい多言語解説文の作成セミナー（観光庁）
- ・ひがし北海道アドベンチャーツーリズムセミナー（北海道観光振興機構）
- ・サイバーインシデント演習 in 北海道（北海道総合通信局）
- ・オールほっかいどうチャレンジピッチ（北海道総合政策部地域創生局）
- ・留萌地域・未来創造シンポジウム（留萌教育局）
- ・認定外国人観光案内所全国研修会・英語中上級（JNTO）
- ・インバウンド対応研修（北海道観光振興機構）
- ・アラスカ姉妹都市のWeb会議

▶メディア記事等◀

1月〜3月に制作した動画は天塩町地域おこし協力隊公式 YouTube チャンネルからご覧になれます

<https://www.youtube.com/channel/UCMlxEln1Atm43p2U95Bs1g>

2022年(令和4年)3月13日(日曜日)

北海道新聞

第3種郵便物認可

母の味再現動画 優秀賞に

【天塩】農林水産省北海道農政事務所主催の本年度の「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテストで、町在住の主婦伊藤千枝子さん(73)と町地域おこし協力隊の野口裕康さん(34)による動画「開拓汁」が、最上位の優秀賞に輝いた。留萌管内では唯一の受賞となった。(高橋力)

天塩の伊藤さん、野口さん作成「広く紹介できうれしい」

伊藤さんは町入りの会に所属しており、3年連続の優秀賞。開拓汁は伊藤さんの祖母が作った母、坪ヶ崎さんがよく作ってくれた、みそ風味の汁物料理だ。冬、全開のにもまねな風骨にみそが絡む中で動く町民にとっては、温かい「お母さんの味」であり、あられる具材を使って各家庭で作る。特に前は、今更の応募にあたり町職員も参加して「開拓汁」と名付たという。

動画の制作は特産のシシトフをメインとした、地産の食材、キクラゲ、大豆の茸をたっぷり使って、みそ地味の大豆を使って作ったものを使うなど、天塩産の食材を使った。

動画は情報通信技術(CT)を得意とする野口さんが作成。具材の野菜が細かく切られ、伊藤さんが調理するまで、ナレーションを担当しながら、伊藤さんから分間をきかされた。料理で7日に開かれた授賞式では、講師として「各家庭で伝えられてきた料理法にも、まさに郷土料理といえる」などと高く評価された。

伊藤さんは受賞について「母から受け継いだ料理を広く紹介できることがうれしい」と喜び、野口さんは「動画作成を通じ、天塩を開放できた先人の息づかいと、天塩川がもたらす肥沃な大地の恵みを感じてきた」と話している。

コンテストには65件の応募があり、5作品が優秀賞に選ばれた。道北では、オホーツク旅客ランド推進本部の「機力カカのみそ汁」とも和え「も優秀賞に輝いた」。

▲「開拓汁」の動画の一場面(左)を動画コンテストで優秀賞を受賞した伊藤さんと野口さん

受け継ぎたい北海道の食コンテスト

▲北海道新聞 R4.03.13

2022年(令和4年)3月20日(日曜日)

2

天塩町ウブシの伝統料理「開拓汁」が優秀賞を受賞

北海道の食動画コンテスト

【天塩】農林水産省北海道農政事務所主催の令和3年度「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテストで、町在住の主婦伊藤千枝子さん(73)と町地域おこし協力隊の野口裕康さん(34)による動画「開拓汁」が、留萌管内で唯一、現代まで、食の多様化や方々の技、真摯な活気がある。

伊藤さんと野口さんによる動画の題材となる「開拓汁」は、町ウィン地区でシシトフ(あは)と呼ばれ親しまれ、平成14年4月に90歳で亡くなった伊藤さんの母である坪ヶ崎さんのレシピを再現したものである。その土地で取れる食材を使った汁料理で、シシトフやウサギ肉などを入れることもあった。伊藤さんは「開拓汁」の名は応募に当たって2人が考えた。

約5分間の動画は、Webデザインや動画製作のスキルをいかし野口さんが撮

伊藤さんの母である「シシトフ」はあはのレシピを再現しコンテストで優秀賞を受賞した動画「開拓汁」

町村版

北から南から

天塩町ウブシの伝統料理「開拓汁」が優秀賞を受賞

北海道の食動画コンテスト

伊藤千枝子さんと野口裕康さんの動画「開拓汁」が、留萌管内で唯一、現代まで、食の多様化や方々の技、真摯な活気がある。

伊藤さんと野口さんによる動画の題材となる「開拓汁」は、町ウィン地区でシシトフ(あは)と呼ばれ親しまれ、平成14年4月に90歳で亡くなった伊藤さんの母である坪ヶ崎さんのレシピを再現したものである。その土地で取れる食材を使った汁料理で、シシトフやウサギ肉などを入れることもあった。伊藤さんは「開拓汁」の名は応募に当たって2人が考えた。

約5分間の動画は、Webデザインや動画製作のスキルをいかし野口さんが撮

▲日刊留萌新聞 R4.03.20

昨年10月、伊藤さんご自宅の畑でキイモやタコシ、カボチャなどを収穫。総に採れた大豆を使い、手作りした豆腐や伊藤さんご自宅の味噌を使って、動画「開拓汁」の題材に。伊藤さんが「昔は大豆や豆腐を手作りしていたが、今はスーパーで買うようになった」と話している。

伊藤さんと野口さんによる動画の題材となる「開拓汁」は、町ウィン地区でシシトフ(あは)と呼ばれ親しまれ、平成14年4月に90歳で亡くなった伊藤さんの母である坪ヶ崎さんのレシピを再現したものである。その土地で取れる食材を使った汁料理で、シシトフやウサギ肉などを入れることもあった。伊藤さんは「開拓汁」の名は応募に当たって2人が考えた。

約5分間の動画は、Webデザインや動画製作のスキルをいかし野口さんが撮